

外国史 I

担当教員 藤波 潔

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 日文・英米以外

【授業のねらい】

現在の歴史教育では、諸地域間の交流を通じた歴史理解が求められており、社会科教員は国家の枠組みを超えた「世界史的な視点」で歴史を理解し、伝達する能力が必要となっている。そこで本講義では、19世紀におけるアジア地域をめぐる国際関係史を取り扱い、広範な視点に基づく時代の理解、教員になるために不可欠な歴史知識の習得、「覚える歴史」とは異なる「考える歴史」という思考様式の育成を目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス：講義に関するルールは何か？
2	東アジア国際秩序の変容①：華夷秩序と朝貢体制とは何か？
3	東アジア国際秩序の変容②：19世紀前半の英中関係の特徴とは何か？
4	東アジア国際秩序の変容③：「南京条約体制」とは、どんな体制か？
5	東アジア国際秩序の変容④：2度のアヘン戦争で、何が、どのように変わったのか？
6	英米の日本進出①：アメリカ合衆国の日本進出のねらいは何か？
7	英米の日本進出②：19世紀中葉における英米の対日政策の特徴とは何か？
8	英米の日本進出③：イギリスの対日政策はどのように変化したのか？
9	諸列強のアジア進出①：1850年代のヨーロッパ国際関係の特徴は何か？
10	諸列強のアジア進出②：1870年代のヨーロッパ国際関係の特徴は何か？
11	諸列強のアジア進出③：諸列強による中央アジア進出はどのような経緯だったのか？
12	諸列強のアジア進出④：諸列強の東北アジア・東南アジア進出はどのような経緯だったのか？
13	朝鮮半島をめぐる国際政治①：1880年代の朝鮮半島情勢はどのようなものだったのか？
14	朝鮮半島をめぐる国際政治②：朝鮮半島情勢に対する諸列強の態度はどのようなものだったのか？
15	まとめ：19世紀のアジア史をどのように理解すればよいか？
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

- ① 本講義は、中学校社会科および高等学校地理歴史科の教員免許を取得するための必修科目である。
- ② 半期の中に数回、復習をかねたワークシートを実施する。
- ③ 本講義を履修するための前提条件はない。
- ④ 出席は毎回必ずとる。 ⑤ 原則として追試験・再試験は実施しない。

【評価方法】

学期末試験（60%）、ワークシート（25%）および平常点（15%）による総合評価とする。
なお、それぞれの評価基準については、最初の講義の時に説明する。

【テキスト】

特定のテキストは使用せず、レジュメを配付する。

【参考文献】

配付するレジュメに記載する。

外国史Ⅱ

担当教員 藤波 潔

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

高等学校の地理歴史科教員は、多面的な歴史理解能力とともに、歴史事象、とくに近現代史に対するより深い専門的知識が求められる。また、歴史教育をめぐる昨今の社会状況を鑑みた場合、教員自身が「なぜ世界史を学ぶ必要があるのか」について語ることのできる能力を求められている。そこで、本講義ではフランス革命以降のヨーロッパ史を取り扱い、「ヨーロッパ」地域が総体として有する歴史的特性の多面的理解、19世紀ヨーロッパ史に関する専門的知識の習得をめざすとともに、現在との関係で歴史を考察する能力の育成を目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス：講義に関するルールは何か？
2	フランス革命①：フランス革命の背景とは何か？
3	フランス革命②：フランス革命の展開には、どのような特徴があるのか？
4	フランス革命③：「ナポレオン体制」の特徴とは何か？
5	ウィーン体制の成立①：ナポレオン戦争の講和は、どのような条件でなされたのか？
6	ウィーン体制の成立②：ウィーン体制は、どのような理念と体制で構築されたのか？
7	ウィーン体制の成立③：ウィーン体制の意義と問題点とは何か？
8	イギリスの自由主義①：19世紀初頭のイギリスは、どんな国家だったのか？
9	イギリスの自由主義②：1820～1830年代のイギリスでは、どのような変化が生じたのか？
10	イギリスの自由主義③：イギリスの自由主義的改革の成果は何か？
11	1848年革命①：フランスの復古王政期は、どんな時代だったのか？
12	1848年革命②：七月革命と七月王政には、どんな特徴があったのか？
13	1848年革命③：二月革命はフランスの内政にどのような影響を与えたか？
14	1848年革命④：ヨーロッパにとって、「1848年」はどんな意義があったのか？
15	まとめ：なぜ「世界史」を学ぶ必要があるのか？
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

- ① 本講義は、高等学校地理歴史科の教員免許を取得するための必修科目である。しかし、中学校社会科教員を目指す者も、歴史の多面的な理解のために、受講を推奨する。
- ② 授業の復習をかねて、毎回ワークシートを実施する。
- ③ 本講義を履修するための前提条件はない。（外国史Ⅰを未履修でも受講できる）
- ④ 出席は毎回必ずとる。 ⑤ 原則として追試験・再試験は実施しない。

【評価方法】

学期末試験（60%）、ワークシート（25%）と平常点（15%）による総合評価とする。
なお、それぞれの評価基準については、最初の講義の時に説明する。

【テキスト】

特定のテキストは使用せず、レジュメを配付する。

【参考文献】

- ①村岡健次・木畑洋一（編）『世界歴史大系イギリス史3 近現代』（山川出版社、1991年）、②村岡健次・川北稔『イギリス近代史 [改訂版]』（ミネルヴァ書房、2003年）、③服部春彦・谷川稔（編著）『フランス近代史』（ミネルヴァ書房、1993年）、④谷川稔他（編著）『近代ヨーロッパの苦悩』（中央公論新社、1999年）他

憲法 I

担当教員 -儀部 和歌子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

自然地理学概論

担当教員 -上原 富二男

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

自然地理学概論

担当教員 前門 晃

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 日本文化・英米言語学科以外対象

【授業のねらい】

私達が生活する地球の表面では、さまざまな自然現象がみられ、私達の生活は自然現象から大きな影響を受けている。その自然現象も地球の歴史を通して変化している。地球の表面にみられる気候、土、地形、水について、私達の住んでいる沖縄からみることによって、自然の認識の仕方について考える。

【授業の展開計画】

- 1 自然地理学とは？地形の成り立ち
- 2 サンゴ礁を育む島々の気候
- 3 島をとりまくサンゴ礁とその成り立ち
- 4 海面と地殻の変動を記録する石灰岩段丘
- 5 溶けゆく島々（石灰岩の溶食）
- 6 岩石の風化
- 7 溶かされたサンゴ礁—熱帯カルスト
- 8 隆起サンゴ礁の赤い土—島尻マージ
- 9 風化物質の移動（地すべり、山崩れ）
- 10 島尻層群泥岩の丘陵

【履修上の注意事項】

講義のまとめ、講義に対する質問を書かせます。期末試験は自筆のノートのみ持ち込み可で行います。

【評価方法】

成績評価は期末試験、出席点により行い、それぞれ70点、30点とする。

【テキスト】

使用しない

【参考文献】

河名俊男（1988）：『琉球列島の地形』新星図書出版
町田 洋ほか（2001）：『日本の地形7 九州・南西諸島』東京大学出版会

自然地理学特講

担当教員 前門 晃

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 法学部・経済学部・社会文化対象

【授業のねらい】

私達が生活する地球の表面はさまざまな姿をしており、その姿は地球の歴史を通して変貌してきた。現在私達が目の前にする地球表面の姿がどのようにして形作られてきたのか、地面の姿のできかたを考える。

【授業の展開計画】

- 1 河川の作用
- 2 土壌侵食
- 3 河谷地形
- 4 河床堆積物
- 5 河岸段丘
- 6 扇状地
- 7 波の作用
- 8 海岸地形
- 9 海食崖の後退
- 10 波食棚表面の変形

【履修上の注意事項】

冬休みにレポートを課す。レポートのテーマは冬休みの前の授業時間に知らせる。期末試験は自筆のノートのみ持ち込み可で行う。

【評価方法】

成績評価は期末試験、課題レポート、出席点により行い、それぞれ50点、30点、20点とする。

【テキスト】

使用しない

【参考文献】

町田 貞 (1984) : 『地形学』 大明堂
佐藤 久・町田 洋 (1990) : 『地形学』 朝倉書店

自然地理学特講

担当教員 -上原 富二男

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

情報通信ネットワーク実習

担当教員 小渡 悟

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 実験実習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

人文地理学概論

担当教員 宮内 久光

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

地理的な見方の基本として「どこに、どのようなものが、どのように広がっているのか、諸事象を位置や空間的な広がりとの関わりでとらえ、地理的事象として見いだすこと。また、そうした地理的事象にはどのような空間的な規則性や傾向性があるのか、地理的事象を距離や空間的な配置に留意してとらえること。」としている。本講義では農業、工業、卸売小売業、サービス業に関する空間的な規則性や傾向性について、古典的な立地理論や空間理論を紹介し、それが現代の日本や沖縄の状況に理論が適合できるのか、わかりやすく論じるものである。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	人文地理学とはどのような性格の学問なのか。
2	チューネンの農業立地論の概要を論じる。
3	チューネン理論の意義と日本や沖縄の農業の現状を検討する。
4	シミュレーション教材「カリフォルニア州の農民行動」を行う。
5	ウェーバーの工業立地論の概要を論じる。
6	ウェーバーの工業立地論を輸送費と労働費の両面から適用事例を考察する。
7	現代日本および沖縄県における各産業の工場立地をウェーバーの工業立地論から検討する。
8	沖縄県からの期間工移動のメカニズムについて地域労働市場と絡めて論じる。
9	沖縄県から期間工として移動した個人に焦点をあてて、その行動を論じる。
10	卸売業の立地と展開について諸理論を紹介する。
11	流通の側面から見るコンビニエンスストアの展開について検討する。
12	シミュレーション教材「コンビニエンスストアの立地」を行う。
13	沖縄県離島地域の特産品と流通システムについて論じる。
14	オフィス立地の諸理論を紹介する。
15	日米のオフィス立地について比較・検討する。
16	期末試験

【履修上の注意事項】

プリント学習なので、ノートは不要です。

【評価方法】

講義への出席が10回以上の者が、レポートの内容（40%）と学期末試験の結果（60%）により評価される。

【テキスト】

テキストは使用しない。適宜レジュメを配布する。

【参考文献】

人文地理学特講

担当教員 一宮内 久光

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では地形図の読図を通して、都市や村落の形態や構造について都市地理学や集落地理学の理論を現実社会に合わせて講述する。また、新旧の地形図を比較することで、地域の変容や地域の課題を考察する。この講義を通して、受講者は地形図への苦手意識が軽減されると同時に、中学社会や高校地歴科の教員として必要な「地理的見方」や「地理的考え方」が身につけられると思われる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	地形図の基礎
2	地形図を用いた図上計測（距離，面積）を行う。
3	地形図を用いた図上計測（角度）を行う。
4	計画都市・札幌の都市構造と都市形成について地形図から読図する（1）。
5	計画都市・札幌の都市構造と都市形成について地形図から読図する（2）。
6	城下町・金沢の空間形成について絵地図から読図する（1）。
7	城下町・金沢の空間形成について絵地図から読図する（2）。
8	明治以降の金沢の変化について読図する。
9	那覇の都市構造と都市形成について地形図から読図する（戦前）
10	那覇の都市構造と都市形成について地形図から読図する（戦後）
11	那覇市内巡検
12	砺波平野の散居村について地形図から読図する。
13	百瀬川扇状地について地形図から読図する。
14	沖縄の農村について地形図から読図をする。
15	南部集落巡検
16	期末試験

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

講義への出席が10回以上の者が、レポートの内容（20%）と学期末試験の結果（80%）により評価される。

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献】

平岡昭利編『九州 地図で読む百年』古今書院，1997年。
平岡昭利編『地図で読み解く日本の地域変貌』海青社，2008年。

地誌 I

担当教員 小川 護

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

地誌学は、直接的に個々の地域をその研究対象とし、その地域構造を明らかにして、その構成に関する諸法則、傾向を明らかにすることを目的とする。その研究方法として、地域的に相違あることによって地域区分を行い、二つ以上の地域についての比較が必要になってくる。地誌 I では、この立場からの研究・調査方法について説明したあと、世界各地を取り上げ、地誌的アプローチを試みる。必要に応じて、パワーポイント(スライド)やビデオ教材の利用、参考文献の紹介、講義関連資料等の配布も随時行う予定である。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ヨーロッパ州①
2	ヨーロッパ州②
3	ヨーロッパ州③
4	アフリカ州①
5	アフリカ州②
6	北アメリカ州①
7	北アメリカ州②
8	北アメリカ州③
9	南アメリカ州①
10	南アメリカ州②
11	オセアニア州①
12	オセアニア州②
13	オセアニア州③
14	世界各地の人々の生活と環境①
15	世界各地の人々の生活と環境②
16	テスト

【履修上の注意事項】

当科目は、教職課程の科目であるため、それ以外の学生の受講は原則として認めない。

追試、再試は行わない。

【日文・英米以外対象】

※地誌 I は中学校社会科、高校地歴科免許状の必修科目

【評価方法】

成績評価は、数回のレポートの提出と出席および試験によって総合的に判断する

【テキスト】

帝国書院『新詳高等地図』1800円、帝国書院『新詳資料地理の研究』1800円

【参考文献】

田辺裕監修(1997)『図説大百科世界地理』、朝倉書店

地誌Ⅱ

担当教員 小川 護

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

地誌学は、直接的に個々の地域をその研究対象とし、その地域構造を明らかにして、その構成に関する諸法則、傾向を明らかにすることを目的とする。その研究方法として、地域的に相違あることによって地域区分を行い、二つ以上の地域についての比較が必要になってくる。地誌Ⅰでは、この立場からの研究・調査方法について説明したあと、日本各地およびアジア州を取り上げ、地誌的アプローチを試みる。必要に応じて、パワーポイント(スライド)やビデオ教材の利用、参考文献の紹介、講義関連資料等の配布も随時行う予定である。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	アジア州①
2	アジア州②
3	九州地方①
4	九州地方②
5	中国・四国地方
6	近畿地方①
7	近畿地方②
8	中部地方①
9	中部地方②
10	関東地方①
11	関東地方②
12	東北地方①
13	東北地方②
14	北海道地方①
15	北海道地方②
16	テスト

【履修上の注意事項】

当科目は、教職課程の科目であるため、それ以外の学生の受講は原則として認めない。

追試、再試は行わない。

【法律学科・地域行政学科・地域環境政策学科・経済学科・社会文化学科対象】

※地誌Ⅱは高校地歴科免許状必修科目である。

【評価方法】

複数回のレポート提出および出席、試験によって総合的に判断する。なお、追試験、再試験は一切行わない。

【テキスト】

帝国書院『新詳高等地図』1575円、帝国書院『もっと知りたい日本と世界のすがた』980円
講義の中で適宜紹介する。

【参考文献】

田辺裕監修(1997)『図説大百科世界地理』、朝倉書店立正大学地理学教室編(2007)『日本の地誌』古今書院3000円、大明堂編集部「新日本地誌ゼミナール」シリーズ、朝倉書店「日本の地誌」シリーズ

哲学概論

担当教員 武田 一博

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

この科目は、教職を目指す人のために、教科(中学社会科、高校公民)に関する専門的知識を授けることを目的としています(ただし、卒業単位に組み入れることができます)。とくに高校で倫理を教える人を念頭に、授業をすすめます。内容は欧米の思想史を中心とし、前期に古代ギリシア思想からルネサンスまでを、後期には近代思想から現代思想を中心に行ないます。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	講義概要、哲学とは何か	17	前期レポートの講評
2	レポートについて	18	近代西洋思想の概要
3	東洋思想と西洋思想の違い	19	デカルト
4	西洋における思想の始まり	20	スピノザ
5	イオニア自然哲学	21	ライプニッツ
6	原子論	22	F. ベーコン
7	ソフィスト	23	ホッブズ
8	ソクラテス	24	J. ロック
9	プラトン	25	ヒューム
10	アリストテレス	26	ルソー
11	ヘレニズム期の哲学	27	カント
12	ユダヤ教とキリスト教	28	ヘーゲル
13	教父哲学	29	マルクス
14	スコラ哲学	30	フロイト
15	ルネサンス期の思想	31	実存主義 まとめ、後期レポート提出
16	まとめ、前期レポート提出		

【履修上の注意事項】

出席はとりませんが、私語と居眠りは、教室の外で行なってもらいます。
 少人数出席の際には、授業が一方通行にならないように、ディスカッションを積極的に取り入れます。
 受講生からの積極的な発言、質問を期待します。

【評価方法】

成績は、前期と後期のレポートを合計して評価します。レポートの採点基準は、教職科目にふさわしく、厳しく行ないます。レポート作成上の諸注意は、2回目の講義で行いますので、それに従ってください。レポート作成上の決まりを守らないレポートを提出しても、不可をつけます。

【テキスト】

とくに指定はしません。

【参考文献】

日本史

担当教員 吉浜 忍

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考 日本文化学科・英米言語学科以外の全学科対象

【授業のねらい】

原始・古代から現代まで通史的に講義を行うが、その時代の象徴的な事件や人物などをテーマ設定する。講義は資料や図版・漫画・クイズなどを取り入れたビジュアルな自作のプリントで行い、テーマ素材の教材化の仕方や教え方に重点を置く。同時に、歴史に興味・関心を持たせることやテーマの時代背景や歴史的意義を理解させることも目標とする。歴史の流れやその時代の基本的な歴史事項や用語を理解させると同時に教材化の視点や方法を学ばせる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス	17	ガイダンス
2	原始・古代①	18	近代①
3	原始・古代②	19	近代②
4	原始・古代③	20	近代③
5	中世①	21	近代④
6	中世②	22	近代⑤
7	中世③	23	近代⑥
8	中世④	24	近代⑦
9	中世⑤	25	現代①
10	近世①	26	現代②
11	近世②	27	現代③
12	近世③	28	現代④
13	近世④	29	現代⑤
14	近世⑤	30	後期まとめ
15	前期のまとめ	31	テスト
16	テスト		

【履修上の注意事項】

教職課程を受講する者のみが履修できる。

【評価方法】

- ①出席・態度・意欲 10点
 - ②レポート(歴史人物の教え方について、前期・後期それぞれ一回) 40点
 - ③テスト(日本史の基礎・基本用語の記述式、前期・後期それぞれ一回) 50点
- ①+②+③=100点満点で評価する。

【テキスト】

- ①テキストとして、毎回5枚前後のプリントを配布する。
- ②「生きた教材」である実物資料を原則として毎回使用する。

【参考文献】

参考文献はテキストのなかに表記する。

プログラミング実習

担当教員 大井 肇

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 実験実習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

法学概論

担当教員 長嶺 弘善

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

わたしたちは、法の網の目に囲まれて生活している。法は、社会における人々の行為規範として機能しており、基本的人権の尊重や統治機構の規制にとどまらず、売買・消費貸借の契約遵守から、夫婦・親子関係の保護や人の生死にかかわる問題、そして違法行為に対する制裁など、多岐にわたる。講義は、現代の法にかかわる領域全般にわたって、できるだけ具体的事例に即しておこなう。受講生が、法の一般的な目的・機能を理解することを目標とし、そして身の回りに生起する具体的問題を法的に思考し、解決する助けとなることを期待する。

【授業の展開計画】

毎回の授業はそれぞれ異なる分野についておこなうが、法的思考において関連するので、休まずに出席することが、理解の助けとなる。

<前期>

1. 登録確認および導入：法現象
2. 六法の使い方：大学入学と単位
3. 社会規範：法と道德の異同
4. 法の存在形式：法源論と分類論
5. 法の適用：解釈と適用
6. 憲法原則：統治章典、権利章典
7. 日本国憲法制定：押付か革命か
8. 人権の本質：自然権
9. 自由権：表現を中心に
10. 包括的人権：幸福と平等
11. 生存権と教育権
12. 労働：労働契約、労働基準
13. 刑法：罪刑法定、違法と有責
14. 刑法：新しい刑法、裁判員
15. 国際関係と人権
16. 試験

<後期>

1. 前期試験講評
2. 民法家族法：親族
3. 婚姻の成立：婚姻意思と届け出
4. 婚姻の効果：身分と財産、日常家事
5. 離婚：成立と効果、財産分与
6. 離婚：子どもの親権・監護権
7. 相続：遺言自由と非嫡出子
8. 民法財産法：法律行為論
9. 契約自由の原則：有効要件
10. 消費者契約：特別法による保護
11. 不法行為：成立、過失責任
12. 不法行為：効果、損害賠償論
13. 立法府：国会、選挙、法定立
14. 行政府：議院内閣制、法執行
15. 司法府：裁判制度、法の番人
16. 試験

【履修上の注意事項】

テキストを一読し、六法を持参して出席し、講義に集中すること。質問大歓迎。講義の聞きっぱなしでなく、テキスト再読・ノート整理など、自学すること。

【評価方法】

評価基準および出欠席の扱いについては、『学則』・『学部履修規程』による。前期・後期の期末試験（穴埋め式および正誤式）で評価する。試験得点調整が必要な場合、出席を考慮する（1割程度）。

【テキスト】

教科書：中川淳編『新やさしく学ぶ法学』法律文化社（2,600円）
法令集：『ポケット六法 平成27年版』有斐閣（1,800円）等

【参考文献】

竜崎喜助『生の法律学【改訂版】』（尚学社）、稲垣明博『生活と法律—生命の誕生から終焉まで【改訂版】』（泉文社）、大村敦志『生活民法入門—暮らしを支える法』（東京大学出版会）、初宿正典『いちばんやさしい憲法入門【第3版】』（岩波書店）

マルチメディア実習

担当教員 中西 利文

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 実験実習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

倫理学概論

担当教員 小柳 正弘

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

倫理学とは人間はいかにあるべきかという問題を哲学的に考察するものである。哲学は本来対話を通して問題を多面的に(ときに根底的に)検討する事をめざすものなので、この講義でも受講者それぞれが書いたり話したり、グループで調査・議論したりといった形で「ともに考える」ことを中核に据える。倫理学の諸問題を素材に、倫理学上の問題に自力でとりくめるような能力の涵養をめざす。発表、特定質問、コメント等は単位取得の必要条件。早退・遅刻は1/2の欠席と見なす。座席は指定する。★第1回のオリエンテーションに出席しなければ履修者名簿から削除。公欠で出席できない場合はあらかじめメール (mkoyanagi@okiu.ac.jp) で相談すること。★

【授業の展開計画】

A. 基本としては、毎回、テキストや与えられたテーマについて分担でレジュメを作成しておこなう個人発表を中心に、全体で質疑応答・議論し、全員がコメントをつける(個人発表、特定質問、コメントは科目担当教員とSAにメールで提出する)。コメントや特定質問のまとめは授業の素材として用いる。

B. 全員が個人発表を行う。

個人発表のレジュメは、40字×30行、A4、2枚。箇条書きではなく、読み上げる原稿にしあげる。定められた締切までに、科目担当教員・SA・特定質問担当者にメールでレジュメを送付する。

発表担当者は、担当部分について、その他の文献も探索し、疑問点などをみずから十分調査・検討して、レジュメのすべてをきちんと説明できるような準備をする。

シラバスには原則として以下のⅠ～Ⅴの項目をたてる。すべての項目に引用・参照した文献の頁数を明記し、レジュメのチェックや発表のさいには当該の文献をすべて持参する。剽窃は不正行為と見なす。

Ⅰ. 問題の概要／重要概念の説明 Ⅱ. 問題の経緯／概念の歴史 Ⅲ. 問題の現状／概念の現代的意義

Ⅳ. 問題の展望／概念をめぐる課題 Ⅴ. 引用・参照文献一覧

C. 発表に対する特定質問を全員に割り振る。

特定質問担当者は、テキストや与えられたテーマと発表者から送付されたレジュメを照合・検討して、内容が明らかでないところや理解が間違っていると思われる点を3点以上指摘するとともに、テキスト、テーマ、レジュメに対する自身のコメントを2点述べる。質問終了後、発表者との質疑応答のやりとりも含めて、特定質問のまとめを40字×30行、A4、1枚で作成し、科目担当教員とSAに1週間以内にメールで送付する。

D. 発表・特定質問へのコメントを発表者・特定質問担当者以外の全員が提出する。

定められた項目への回答とコメントを科目担当教員とSAにメールで送付する。

E. 必要に応じて小グループで議論・調査して結論をまとめ発表し、他のグループや科目担当教員と質疑応答・討論する方式も採用。

F. テキストの割り振りやその他のテーマはポータルシステムの「授業連絡」で告知し、分担や日程は第2回の授業時をめぐりに確定する。教育実習等で公欠が想定される部分についてはオリエンテーションのさいに調整する。

G. 個人発表の素材とすることが予定されているのは、テキストの倫理学基礎理論、生命倫理、ビジネス倫理の部分、規範理念としての「人間の尊厳」「自己決定」「隣人愛」、倫理学の古典の読解などである。

【履修上の注意事項】

*第1回のオリエンテーションに出席しなければ履修者名簿から削除する。 *所要の連絡は、大学のポータルシステムから、学生番号メール宛に行うので、必要に応じて携帯電話への転送設定等を行うこと。メールをみていないという弁明は認めない。レジュメやコメントを添付メールで提出することも求める。 *自分で考え、読んだり書いたりすることを通して、自分の言いたいことをきちんと話すことができ、他人の言いたいことをきちんと聞きとることができるような能力を練磨しようとする意欲や気概のある受講者を望む。

【評価方法】

*個人発表・特定質問をレジュメやまとめの提出も含めて定められたやり方で締切をまもって行うことは単位取得の必要条件。その上で、以下の配点内で評価する(配分を変更する際は、授業中にその旨、告知する)。

①個人発表30点 ②特定質問20点 ③コメント30点 ④その他(発言の記録、授業中に行う持ち込み不可のレポート、グループディスカッションなど) 20点

*欠席の扱いは学則の通り。遅刻・早退はこの授業ではそれぞれ1/2の欠席と見なす。

【テキスト】

長友敬一『現代の倫理的問題』ナカニシヤ出版(2600円税別)

【参考文献】

小松美彦『生権力の歴史』青土社/ 小松他編『いのちの選択』岩波書店/土井健司『愛と意志と生成の神』教文館/ 牧野広義『人間的価値と正義』文理閣/ 小柳正弘『自己決定の倫理と「私-たち」の自由』ナカニシヤ出版/高橋他編『自己決定論のゆくえ』九大出版会

倫理学概論

担当教員 大城 信哉

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

【授業のねらい】

本講座は教職を志す人を対象に、倫理学の概略を伝えることを目的としています。教育と倫理と言うとよく「道徳教育の必要」が思い浮かべられますが、教職に就く人が倫理学を学ぶ必要があるのはそうした理由によるものではありません。道徳教育の必要が説かれるときには、道徳についてすでに判っている前提で、それを児童生徒に教えることが目指されています。しかし倫理学研究とは、そもそも道徳的であるとはどういうことかを再検討する学問だからです。本講座では主として前半に倫理学の学説史を紹介し、後半で現代の問題に即して具体的に検討します。予備知識は取りたてて必要ありませんが、熱心に学ぶ意欲のある人が来ることを期待しています

【授業の展開計画】

予定は以下のとおりですが、第1回の合意作りのときに、受講者諸君がどのような問題を取り上げてほしいと思っているか教えてもらえたら、ある程度まではそれに応じます。希望があれば言ってください。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	開講にあたって受講者諸君との合意作り。	17	積極的自由と消極的自由とを考えてみます。
2	倫理という語の意味について考えます。	18	自由と責任の関係について考えてみます。
3	倫理の漢字の意味についても考えてみます。	19	パターンリズムについて考えてみます。
4	ソクラテスとプラトンの考えを紹介します。	20	教育の倫理学を考えてみます。
5	アリストテレスの倫理学を紹介します。	21	人間であることの意味を考えてみます。
6	18世紀のカントの考えを紹介します。	22	世代間の違いの意味について考えてみます。
7	カントの考えをさらに詳しく考えてみます。	23	教育と政治の関係について考えます。
8	功利主義の思想について考えます。	24	地域と国家との関係について考えてみます。
9	功利主義的な自由主義について考えます。	25	国際関係について考えてみます。
10	カント説と功利主義の対立点を考えます。	26	自由と権力との関係について考えてみます。
11	うへの対立点について具体的に検討します。	27	生産と消費について考えてみます。
12	政治や経済と自由について考えてみます。	28	経済活動と環境について考えてみます。
13	徳について考えます。	29	ふたたび教育について考えてみます。
14	共同体の意義について考えます。	30	教育は誰のためのものかを考えてみます。
15	あらためて正義について考えます。	31	どのような理解が得られたでしょうか。
16	現代社会における倫理学の問題を考えます。		

【履修上の注意事項】

受講者の人数にもよりますが、こちらからも皆さんに質問します。活発な議論となることを望みます。評価方法については厳正であるように努めますが、講義の時間は皆さんと楽しく共有したいと願っています。そのためにもぜひ講義には積極的に参加してください

【評価方法】

最終回のあとにレポートを提出してもらうつもりですが、通年講義なので適宜小テストもおこなおうと考えています。評価の方法についても第1回で他の希望が出たら考慮しますので、考えがあれば聞かせてください。出席も取りますが、受講者が出席することは最低限の条件ですので、それ自体を取りたてて高く評価するものではありません。

【テキスト】

使用しません。資料は講義中に適宜配布します。

【参考文献】

必要に応じて教室で指示します。